

県内小学生プログラミングアワード 福田君(代陽小5年) グランプリ



くまもとジュニアプログラミングアワードの最終審査に臨んだ子どもたちは16日、熊本市東区

熊本県内の小学生がプログラミングのアイデアや表現力を競う「くまもとジュニアプログラミングアワード」の最終審査が16日、熊本市東区の県立大であり、グランプリに八代市立代陽小5年福田蒼志君の「ヒートショックくん」を選んだ。福田君は全国選抜小学生プ



グランプリの
福田蒼志君

ログラミング大会に県代表として出場する。熊日主催。東京エレクトロン九州特別協賛。2020年度に小学校で必修化さ

れたプログラミングへの関心を高めてもらうのが狙いで3回目。今回は社会課題解決、アイデアの2部門に計31人がエントリーした。最終審査にはそれぞれ6人、11人が臨み、作品への思いや工夫した点などを発表。くまもとプログラミング教育推進協議会会長の飯村伊智郎県立大教授、県教育委員会の松下純也指導主事、熊本市教育センターの荒川美穂子指導主事、熊本高専の高松洋校長、県情報サービス産業協会青年部の水上敬二さんが審査した。

社会課題解決部門からグランプリを獲得した福田君は、ヒートショックによる事故を防ぐ装置を作った。居間と脱衣所の温度差が10度以上ある場合に音声と光で危険を知らせる仕組みで、審査員から「身近な祖父の体験をきっかけに社会課題を見つけ、そのままでも商品にできるほどの完成

度に仕上げている」と評価された。

福田君は「グランプリをもらえるとは思っていなかったのだけれしい。祖父に最初に使ってほしい」と話した。全国大会は来年3月3日に東京都で開かれる。

(石井颯悟)

他の入賞者は次の通り。

(敬称略、数字は学年)

- ◇社会課題解決部門▽金賞 久保田千織(城北6)▽銀賞 大塚陽太(倉志楓の森6)
- ▽銅賞 笠岡修平(熊大付4)
- ◇アイデア部門▽金賞 小幡こはる(出水南5)▽銀賞 國知祐太(広安6)井澤駆(帯山西3)▽銅賞 高森瑛士(田底6) 中野遥馬(美咲野4) 南部靖仁(託麻北4)